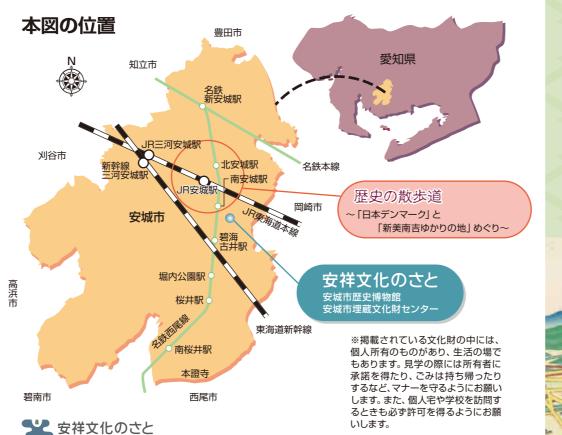
歴史の散歩道

ンマーク」と「新美南吉ゆかりの地」めぐり ~





安城市歴史博物館・安城市埋蔵文化財センター



〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地歴史博物館 TEL 0566-77-6655 FAX 0566-77-6600 埋蔵文化財センター TEL 0566-77-4490 FAX 0566-77-6600 URL http://www.city.anjo.aichi.jp

利用のご案内

■開館時間 AM9:00~PM5:00 (入館時間PM4:30まで)

■休館 日 毎週月曜日(祝日の場合は開館) 年末・年始(12月28日~1月4日)

■歴史博物館観覧料

【常設展】一般:200円

【企画展】無料

【特別展】一般:有料(常設展含む)

*中学生以下は無料。

*団体(20人以上)・障害者は割引します。

2022.3 5,000 (S) TEOFTABLE 環境に優しい植物油インキを使用しています。

安城

歴史の散歩道

~「日本デンマーク」と「新美南吉ゆかりの地」めぐり~



安城町鳥瞰図(昭和14年 部分) 安城市歴史博物館蔵

安城市教育委員会

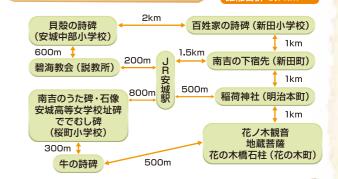
「日本デンマーク」コース

所要時間 1時間40分 距離合計 5.8km



「新美南吉ゆかりの地」コース

所要時間 2時間20分 距離合計 6.7km



新美南吉について

新美南吉は、日本を代表する童話作家のひとりで、大正2年(1913)7月30日に、知多郡半田町(現半田市)で生まれました。中学生の頃から童話や童謡を書き、児童雑誌『赤い鳥』に何度も入選し、昭和7年(1932)には、「ごん狐」が雑誌に載りました。

昭和13年 (1938) 4月から安城高等女学校の教員となり、新美正八先生として英語、国語、農業を教えながら、創作にも励み多くの作品を書いています。南吉の単行本『良寛物語 手毬と鉢の子』や童話集『おぢいさんのランプ』もこの教員時代に出版されました。

昭和17年 (1942) 頃から健康状態が悪化し、自宅療養しながら翌年2月には安城高等女学校を退職します。昭和18年 (1943) 3月22日に29歳で生涯を閉じました。南吉の死後、童話集『牛をつないだ椿の木』『花のき村と盗人たち』が出版されました。南吉が暮らしていた当時の安城は、多角形農業「日本デンマーク」時代の終わりころでした。



~「日本:



※安城南明治土地区画整理事業により、

道路が変わりますのでご了承ください。

安城歴史の散步

~ 「日本デンマーク」と「新美南吉ゆかりの地」めぐり~

近代における安城は、明治13年(1880)の明治用水の完成と、明治24年(1891)の東海道本線安城 の設置により発展してきた中核都市です。明治34年(1901)には、愛知県立農林学校の開校によって 先進的な農業実践やその経営が導入されたことにより、大正末期から昭和の初期には、農都「日本テ ンマーク」として、全国にその名を知られるようになりました。明治39年(1906) に安城町、昭和27年 (1952)には安城市が誕生し発展してきました。その後、自動車産業等における工業化も進み、近年は 「健幸都市安城」を掲げ、さまざまな取り組みがなされています。

「日本デンマーク」めぐり

JR安城駅(御幸本町)



明治22年(1889)に東海道本線の 新橋~神戸間が開通し、明治24年 (1891)に安城駅が開業されます。停 車する列車は、1日あたり5本でした。 穀商などが進出し、郵便局も設置さ れました。大正10年代の「日本デン マーク | 時代、全国からの視察者が この駅を利用しました。昭和57年 (1982)の都市改造事業に伴い駅舎 和42年(1967)には安城市農協協会 が改築されます。平成4年(1992)に は市制40周年を記念したモニュメン あいち中央本店」となっています。 トも設置されました。

安城町道路元標(御幸本町)

」の南西角の歩道上にあり ます。道路で見る案内標識 「安城までxkm」の数字は、 道路元標を起点にしていま す。かつてはここが道路の 起点でしたが、現在は市役



農民館跡(JAあいち中央本店)(御幸本町)



農民館は、安城町役場場内に置 「丸碧更生病院」は産業組合病 かれていた町農会を、役場から分離 院として、昭和10年(1935)に開院し 独立していた方が便利だということ ました。山崎延吉が名付けたこの病 で、昭和2年(1927)この地に建設さ 院は、内科・小児科・外科・産婦人科 れました。ここでは各種の品評会・講 をもつ碧海郡唯一の総合病院でし 習会・講演会が開催され、多角経営 た。組合員や近隣の人たちに利用さ を特徴とする安城農業の近代化が れた更生病院は、日本デンマークと 進められました。昭和38年(1963)安 呼ばれた先進性ばかりではなく、農 城市農業協同組合に統合され、昭 村医療環境の改善に貢献し、農村 の生活を向上させる役割を果たしま 会館が建設されました。現在は「JA した。現在は安城町に移転し、市民 病院的な役割と西三河南部の中核 病院を担っています。

ささやき広場の表示板(御幸本町)

ささやき広場前の歩 道に「北緯34度57分20 秒、東経137度5分20秒 」と国土座標の地点を 記した表示板がありま す。そこには、姉妹都市 のハンチントンビーチ市 とホブソンズ・ベイ市の



安城更生病院跡(アンフォーレ)(御幸本町)

丸碧記念碑(御幸本町)



大正4年(1915)に、碧海郡にある34 の産業組合の連合会として碧海郡購 買販売組合連合会が設立され、ここに その建物がありました。通称"丸碧"と呼 ばれていたため、その発祥之地碑があ ります。記念碑には、丸碧や産業組合 について記されており、丸碧では、購買 事業・販売事業・連合倉庫業に取り組 み、碧海郡の産業組合の中心でした。 昭和10年(1935)新規事業として更生 病院を設立・運営を行い、地域医療に 貢献しました。

文学の散歩道(安城公園)(桜町)



の詩歌や俳句の碑があり、園内を散策 しながら楽しむことができます。

した店舗・本宅・茶室・蔵があります。2 開しています。大正6年(1917)に建て られ、1階に和室4部屋と土間、2階に 和室4部屋・茶室があり、格式ある内装 になっています。

岡田菊次郎の業績や安城の発展の 様子を学ぶ場、地域の交流を深める場 となっています。

鶏霊塔(太平寺)(大東町)



養鶏・鶏卵が副業として農家経済の -翼を担うようになったのは、大正6~7 年(1917~1918)頃からといわれ、吉浜 (高浜市)や安城の養鶏は有名でし た。昭和16年(1941)、曹洞宗太平寺 が大池の隣に建てられました。その境 内には、愛知県養鶏組合連合会安城 支所が昭和17年(1942)に建立した鶏 霊塔(山崎延吉書)と、御幸本町から 移設された鶏霊塔が2基あります。

大池(大東町)

大池は、内外綿㈱安城工場を設立するにあたりに、その敷地を整地するために 土取り用に掘り取った場所にできた人工池で、1.5haの広さがあります。明治用水管

理組合が昭和6年(1931)に購入し、干 天時に備えた貯水池にしました。その後 防災上の必要性から、平成18年 (2006)、貯水地として整備され、大池公 園として人々の憩いの場となっています その池を1周することによって、「大池 十八ケ所霊場めぐり」ができます。



皇紀二千六百年植樹記念碑

昭和15年(1940)は紀元2600年にあ

たり、安城では安城公園運動場(陸」

競技場)を造って、二千六百年奉祝安

城町体育大会・武道大会を実施しまし

た。現在の市役所の位置がそこにあた

り、マツが植えられているところが観覧席



岡菊苑(朝日町)

明治用水緑道



でした。皇紀2600

年を記念して、「祝

紀元二千六百年

26本 記念にう

えると刻み込まれ

た記念碑をここに

与田与八郎・岡本兵松の尽力により明

治12年(1879)に着工、翌年に完工しま した。その後100年間ほど掘り割り式水 路方式で水を供給してきましたが、昭 和48年(1973)から管水路化への工事 が始められ、約25kmが明治用水緑道と して整備されました。現在では、ミニ明 治用水や水遊び場、学校でのビオトー プなどに利用されています。

岡田菊次郎の銅像(大東町)

26歳、政治家を志し、安城村会議員、助役、明治34年 (1901)に村長、引き続き町長として、地方行政に貢献しまし た。さらに、知立町にあった警察署や郡役所を安城に移転さ せたり、県立農林学校や農事試験場などの誘致をしたりしま した。郡農会や町農会を設立するなど「日本デンマーク | 農

業の発展に貢献しました。銅像は、昭和24年(1949)藍綬褒章受章を記念し農園 館隣に建てられましたが、現在は明治用水会館敷地内に移設されています。

安城農林高等学校・山崎延吉銅像・開校記念館(池浦町

県立安城農林高等学校の前身である愛知県立農林学校は、明治34年(1901 に開校しました。初代校長の山崎延吉は地域農業のリーダーとなる人材を育成す

るとともに、農村に入って実践的な指導 を行いました。山崎は、大正9年(1920) までの20年ほど校長を務めながら全国 で講演を行い「日本デンマーク」農業の 発展に尽くしました。山崎の銅像は昭和 30年(1955)に建てられ、現在は本館来 賓玄関前に移設されました。開校記念 館は、明治36年(1903)の本校舎整備 のときに建てられた旧農場管理所で す。小規模で質素な建物ですが、県立 学校として旧地に残る建物では県下最 古級の木造建造物です。



境目首折地蔵(首無地尊尊)(池浦町)

丸太交差点の角にある境目首折地蔵小堂には、首のな い石の地蔵様が祀られています。三本木(現安城町)という ところに古狐がいて、道行く人をたぶらかし、迷惑をかけるこ とが多かったが、この小堂までくると、夢が覚めたように、心も 確かになり、道も明らかになったと伝えられています。 「撫子や 利生あらたな 辻佛 | (安城八景の1つ)

明治用水会館・水のかんきょう学習館(大東町)

明治用水会館には、明治用水土地 改良区(水土里ネット明治用水)の事 務所があります。玄関先には東海道に 架かっていた 「明治川橋 | の親柱があ ります。水のかんきょう学習館は、「水、 農、食、環境 | について学べる施設で、 ギャラリーや学習室などがあり、「水の かんきょう楽校」も開校しています。2階 収蔵庫には、都築弥厚が作った開削 計画図や古文書、石川喜平が使った 測量器具など明治用水の当時の資料 が保管されています。



▲明治用水会館 ▼水のかんきょう学習館



愛知県立農事試験場(池浦町)

明治26年 (1893) に発足した農事試 験場は、大正9年 (1920) に池浦町に 移転し、試験場として手芸部・園芸部 など6部門をもつ本格的な試験研究活 動を進めていきます。安城町農会等の 講習会指導や、各種出版物を刊行する など県下の農業の発展、「日本デンマー ク」農業に貢献しました。特に、岩槻信 治が中心となって進められた稲の品種 改良はめざましい成果をあげ、新品種 が次々に生み出されました。試験場内 には「日本晴育種記念碑」があります。

(「新美南吉ゆかりの地」めぐり

貝殻の詩碑(安城中部小学校)(大東町)

安城中部小学校 は明治41年(1908) に開校されました。 この詩碑は、平成 元年(1989)の図書 館教育で優秀賞受 賞記念に築られた

文学の散歩道」の1つで、職員室前 の庭園にあります。「かなしいときは 貝殻鳴らそ… と、詩碑には南吉の自 筆原稿を転写して石に刻まれていま す。ソニー創業者の一人である井深大 氏が、大正4年(1915)の1年生から 5年生までここで勉学をしています。



明治31年(1898)に浄土真宗大谷 派の本山直轄として設立されました。 明治34年(1901)に開校した県立農林 学校の寄宿舎として、明治40年(1907) の「信参鉄道」計画の総会場所にもこ こが利用されました。南吉の「古安城 聞書」では、「説教所ははやくできた。宗 教心はつよい」と書いています。

牛の詩碑(安城公園)(桜町)



文化協会発足25周年を記念して、安 城公園内に建てられました。その碑に は「牛は重いものを曳くので首を垂れて 歩く… |と刻まれています。『新美南吉 詩集』に載せられ、世に広く知られるよ うになりました。南吉は大正2年の「丑」 年生まれです。

校は、かつて新美南吉が教員とし て赴任した安城高等女学校です。 昭和13年(1938)南吉は、25歳か ら5年間、新美正八先生として教 壇に立ち、英語、国語、農業を教え ながら担任をしていました。小学校 の玄関左にある円形の石碑には、 「南吉のうた |と「南吉の姿 | が写 し出されています。その奥には、「こ んぎつねと兵十一のモニュメントが 置かれ、ススキやヒガンバナなども

植えられています。



南吉のうた碑・モニュメント・安城高等女学校址碑(桜町)

城高等女学校(現桜町小学校) 赴任し、1年間は半田の実家から通 勤していました。学校の方針もあり翌 年から安城町大字出郷(現新田町) の大見家に下宿することになりまし た。部屋は長屋門の一室にあり、昭 和17年(1942)の終わりころまで借り ていました。下宿先は今も当時の面 影を残し、南吉が顔を洗った井戸な ます。「生まれいでて 舞ふ蝸牛の どもそのまま残っています。南吉は、 下宿のことを「宿」と呼んでいました。

稲荷神社(明治本町)



狐のために4本のマツを残したと 伝えられるところから、「四本木稲荷」 とも呼ばれています。境内に鈴木平 兵衛(俳号・仙風舎柳月)作の句碑 があります。南吉の「古安城聞書 に、「四本木狐が庄屋へ頼みに来 て、4本の木を残してもらった。開墾中 に。」と、書いています。天保13年 (1842)建立されました。

花の木橋の親柱(花ノ木町)



天明8年(1788)安城ケ原に「花ノ木 田」という小さな田が開かれました。ハ ナノキの自生地であり、南吉作品『花の き村と盗人たち』の舞台になったと言わ れています。明治24年(1891)に安城 駅が開設され、一本の野道から「花ノ 木通り と呼ばれる町になりました。大 正14年(1925)花の木橋は永久橋に 替えられ、現在地に移設されました。



南吉生誕80周年 と学校図書館教 育の総合優秀賞 受賞を記念して建 碑されました。詩

この詩碑は、南吉の詩碑の中では

安城最古で、昭和23年(1948)11月

安城高等女学校中庭に、当時の教

員や南吉の教え子によって設立され

ました。その後、高校が赤松町に移

転され詩碑も移設されました。平成

年を記念して、この碑は元の安城高

等女学校(現桜町小学校)に戻され

触角のごと…」と刻まれています。

中庭に、百姓家の

詩碑があります。



和 17年 (1942) 10 月に書かれ、「おききよこの百姓家か らもれてくるハモニカの声を…」と、あるように下宿先の 農家の情景が描写されています。

観音で、旧更生病院南 にありました。昭和 20 年(1945) 三河地震で



本堂・庫裡が被害を受け廃寺となり本尊も行方不明 になりました。地蔵菩薩は、花ノ木観音の境内にあっ た小さな地蔵です。南吉が安城高等女学校への登下 校時に立ち寄った可能性もあり、『花のき村と盗人た ち』に登場する地蔵のモデルになったかもしれません。 石塔は折れたものを修復し、観音像と地蔵菩薩は新 しく建てられました。

